

【虐待への対応】

就学前、小学生ともに、「大声で叱った」「お尻、手、頭など体を叩いた」が多く、いずれも約70%、次いで「自動車の中に子どもだけを置いてその場を離れた」が約40%、そのほか「食事を与えなかった」「子どもが傷つくようなことを繰り返した」等にも回答がある。設問設定が虐待として位置づけられる内容を限定していない関係上、一概に評価できないが、潜在する虐待の実態を予測させる結果である。

②保育サービスについて（主に保育サービスニーズの推計に係る内容）

【平日保育の充実】

保育サービス等を「利用したい」が70.8%、このうち「認可保育所」が71.4%、「幼稚園」が21.5%などとなっている。また「利用したい」の56.2%が「主な保護者が現在就労している」を、18.2%が「子どもに集団教育を受けさせたい」を理由としている。なお、認可保育所を利用していない理由としては、36.6%が「保育料が高いから」と答えており、家庭経済において保育料の負担感が過重である可能性が考えられる。

【土曜日・休日保育の充実】

土曜日の保育サービス等を利用意向は「ほぼ毎週利用したい」「月1～2日利用したい」をあわせて33.7%、休日では14.3%となっている。

【病時・緊急時等の対応】

子どもの病気によって保育所等を休んだ経験については、「あった」が90.1%となっており、その時の対処としては「父親または母親が仕事を休んだ」が最も多く67.5%、次いで「(同居者を含む)親族・知人に預けた」が40.4%となっている。なお、病後児保育の希望運営形態としては「医療機関の専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」が最も多く54.7%となっている。

緊急の用事で子どもの面倒がみられなかった経験については、「あった」が54.7%となっており、その時の対処としては「親族・知人に預けた」が最も多く68.9%、「配偶者が面倒をみた」が52.4%などとなっている。

保護者の用事によって子どもを泊まりがけで預けなければならなかった経験については、「あった」が就学前で16.5%、小学生で18.9%となっており、その時の対処としては「親族・知人に預けた」が最も多く、就学前で97.3%、小学生で85.3%となっている。

これら対応において、一定の公的な支援サービスの充実が求められる。

【保育所・幼稚園の施設環境の改善・充実】

通っている施設の満足度を尋ねたところ「施設・環境」で 32.4%、「利用者間のネットワークづくり」で 31.1%、「職員等の配置」で 23.5%が「やや不満」あるいは「大変不満」と答えている。

【放課後児童クラブの拡充】

利用の実態は、平日では「週 4 日以上利用している」「週 1～3 日利用している」をあわせて 3.1%、休日では「ほぼ毎週利用している」「月 1～2 日利用している」をあわせて 1.2%となっている。利用の希望では、平日は「週 4 日以上利用したい」「週 1～3 日利用したい」をあわせて 23.6%、休日では「ほぼ毎週利用したい」「月 1～2 日利用したい」をあわせて 15.2%となっており、潜在需要に対してサービス供給量が圧倒的に不足していることが予測される。

また、放課後児童クラブへの希望としては「子どもの通う小学校に設置してほしい」が最も多く 44.2%、次いで「利用できる学年を延長してほしい」が 16.6%などとなっている。このうち学年延長の希望は「小学 6 年生まで」が最も多く 73.6%である。

③その他の子育て支援サービスに関する課題

【ニーズに即応した子育て支援サービスの提供】

その他の子育て支援に係るサービスについての認知度・利用経験・利用意向についてまとめると下表のようになる。単純に引き算によって比較した結果を参考にすれば、認知度より利用意向が大きいサービスでは、実際の利用経験も小さく、利用拡大に向けた広報・周知等に課題があることが推察できる。

また、認知度よりも利用意向が小さく、かつ、実際の利用経験も小さいものでは、限定されたニーズに応えるサービスである側面がうかがえるとともに、利用に際しての障壁の有無について検証していく必要がある。

小学生において、3 サービスについて利用経験よりも利用意向が小さいものがあるが、これについては、子どもの成長とともに役割を終えたサービス、あるいは、サービス内容の不足が想定される。

■子育て支援サービスの認知度、利用経験、利用意向の比較 (％)

就学前	認知度	利用経験	利用意向	利用意向－認知度	利用経験－利用意向
母親学級、パパ・ママ学級（両親学級）、育児学級	86.0	29.8	34.7	-51.3	-4.9
保健センターの情報・相談サービス	81.2	29.8	55.1	-26.1	-25.3
おひさまひろばなど家庭教育に関する学級・講座	75.2	28.8	41.9	-33.2	-13.1
保育所の子育て相談	54.4	10.6	45.1	-9.3	-34.4
幼稚園の教育相談や講演会等	42.5	22.5	42.4	-0.1	-19.9
教育相談センター・教育相談室	32.9	2.2	38.3	5.3	-36.0
地域子育て支援センター	47.1	11.4	46.1	-1.0	-34.7
保育所の一時保育	76.8	16.1	44.3	-32.5	-28.2
幼稚園の預かり保育	59.5	17.9	45.2	-14.3	-27.3
保育所や幼稚園の園庭等の開放	78.1	37.7	58.9	-19.2	-21.3
子育てサロンなど身近な地域における親子の集いの場	28.2	6.5	39.1	10.9	-32.6
児童館	80.4	27.8	64.1	-16.2	-36.3
ファミリーサポートセンター	11.2	1.0	35.0	23.8	-34.0
家庭児童相談室	33.2	2.1	38.1	4.9	-36.0
市が発行している子育て情報誌	79.8	55.7	72.2	-7.5	-16.5
小学生	認知度	利用経験	利用意向	利用意向－認知度	利用経験－利用意向
母親学級、パパ・ママ学級（両親学級）、育児学級	68.0	36.5	11.8	-56.2	24.8
保健センターの情報・相談サービス	62.2	15.5	34.1	-28.2	-18.6
おひさまひろばなど家庭教育に関する学級・講座	29.8	8.8	34.2	4.4	-25.4
保育所の子育て相談	43.0	5.3	10.7	-32.3	-5.3
幼稚園の教育相談や講演会等	50.5	26.5	14.0	-36.5	12.6
教育相談センター・教育相談室	48.8	3.3	27.2	-21.6	-23.9
地域子育て支援センター	43.2	6.7	24.1	-19.2	-17.4
保育所の一時保育	77.8	16.3	7.4	-70.5	8.9
幼稚園の預かり保育	67.6	22.8	10.1	-57.5	12.7
保育所や幼稚園の園庭等の開放	63.7	22.7	14.5	-49.2	8.2
子育てサロンなど身近な地域における親子の集いの場	30.9	8.6	15.0	-15.9	-6.4
児童館	85.1	38.9	38.6	-46.5	0.3
ファミリーサポートセンター	9.3	0.1	13.0	3.7	-12.9
家庭児童相談室	45.4	1.8	21.5	-23.9	-19.7
市が発行している子育て情報誌	81.0	47.6	46.0	-35.0	1.6

【子育てからのリフレッシュ等への対応】

就学前で、リフレッシュ目的の一時保育について、利用意向が「ある」が55.4%となっており、このうち「保育所などの施設で子どもを預かってくれるサービス」が70.1%となっている。

ファミリーサポートセンターの保育サービスへの希望としては「保護者の病気などの際の預かり」が最も多く44.0%、次いで「保育所や放課後児童クラブ・校庭開放などの開始前・終了前の預かり」が41.8%、「用事などで一時的に外出する場合の預かり」が40.8%などとなっている。

④就労との両立に関する課題

【男女共同参画社会の構築】

就学前児童の母親の46.2%が「無職（専業主婦を含む）」、26.2%が「パート・アルバイト」に従事しているが、小学生児童の母親では、22.7%が「無職（専業主婦を含む）」、42.6%が「パート・アルバイト」に従事している。子どもの幼少期に離職し、子どもが一定の成長をした段階でパート・アルバイト等をはじめた女性像が顕著である。また、「育児休業を取得したことがない」父親は、就学前、小学生とも80%を超える。

【子育てを支援する就労環境の構築と職場理解の促進】

就学前、小学生ともに、「自分が病気・ケガをした時や子どもが急に病気になった時に代わりに面倒を見る人がいない」が最も多く約40%、次いで「子どもと接する時間が少ない」「急な残業が入ってしまう」が約30%などとなっている。

⑤子育てへの男女共同参画

【父親の育児参加の促進】

父親の育児状況で「よくやっている」「やっている」をあわせると、就学前で82.6%、小学生で73.7%となっている。父親の育児内容ではいずれも「子どもと遊ぶ」が最も多く、「保育所の送迎」「家事をする」が少なくなっている。

⑥地域の子育て支援環境等

【子育てに関する活動への参加促進（密室育児の予防）】

子育てに関する自主的な活動について、「現在は参加しておらず、今後も参加するつもりはない」が最も多く、就学前で50.2%、小学校で71.5%となっている。

「現在参加している」「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」のなかでは、実施、あるいは参加したい活動内容として「子どもをほかの子どもといっしょに遊ばせたり、親子で楽しむ活動」が、また、求める行政支援としては「活動場所の提供（場所貸しなど）」「活動資金助成」などが多くなっている。

【子どもの遊び場の充実】

就学前、小学生とも「雨の日に遊べる場所がない」が最も多く過半数となっている。

【子育て家庭の住生活支援】

回答者の住宅の状況は「持家住宅（戸建て）」が最も多い。就学前では民間賃貸住宅も22.3%あるが、新婚～子ども幼少期に賃貸住宅に居住し、その後、持家住宅（戸建て）に移行していると推察される。背景には、新世帯の居住が、親（親族）世帯との近居、敷地内同居等の形態を取っていることが考えられる。

【子育てしやすい住環境の整備（子どもバリアフリーのまちづくり）】

子育てをしやすい福知山市のまちの環境について、次のような項目が上位となっている。

■子どもとの外出の際に困ること・困ったこと

就学前	トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていないこと	42.8%
	歩道の段差などがベビーカーや自転車の通行の妨げになっていること	28.8%
	暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配である	24.2%
小学生	暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配である	37.1%
	買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がないこと	18.3%

■バリアフリーやベビーキープの設置等を希望する建築物の用途

就学前	スーパー・飲食店などの商店	71.6%
	駅舎	50.1%
	その他公共施設	44.0%
小学生	スーパー・飲食店などの商店	63.2%
	駅舎	54.4%
	その他公共施設	44.3%